

## P.H.マイル (1517-1579) の射撃に関する年代記

楠 戸 一 彦 (広島大学総合科学部)

## Die Chronik über das Schießspiel von P.H.Mair (1517-1579)

Kazuhiko Kusudo (Faculty of Integrated Arts and Sciences, Hiroshima University)

## はじめに

本稿の目的は、ドイツの年代記作者である P. H. マイル (1517-1579) が収集した射撃競技 (Schießspiel) に関する写本の内容を紹介することである。

16世紀のヨーロッパでは、スポーツ<sup>1)</sup>に関する数多くの著作が作成された。例えば、A. デューラーの『剣術書』(1512)、N. ヴィンマンの『水泳書』(1531)、A. スカイノの『球戯書』(1555)、O. マグヌスの『北方民族誌』(1555)、H. メルクリアリスの『体操論』(1569)、A. ツッカロの『体操書』(1599) など<sup>2)</sup>。この意味では、E. メールが指摘しているように、「16世紀は体育文献における頂点にあった」時代である<sup>3)</sup>。ドイツにおいても、K. ヴァスマンスドルフの一連の研究が示しているように<sup>4)</sup>、この時代にはスポーツに関するさまざまな文書が作成された。

本稿で取りあげる P.H. マイルはアウグスブルク市の参事会役人であり、同時に年代記作者でもあった。彼は自らが体験したことを『備忘録』として書き残し、さまざまな年代記を収集し、これらを写本させて『叢書』にまとめたり、自らも年代記を作成した。同時に、彼は剣術や射撃あるいは馬上槍試合に関する文献を収集し、

これらを写本させて『叢書』にまとめたり、剣術に関する著作を書き残している。しかしながら、従来のスポーツ史では、K. ヴァスマンスドルフ、K.C. ヴィルト、A. クリュエーガー等がマイルの剣術書の存在に言及するだけであり<sup>5)</sup>、スポーツに関する年代記作者としてのマイルの業績にはほとんど注意を払ってこなかった。

そこで、本稿では、スポーツに関する年代記作者としての P.H. マイルの業績を解明する第一歩として、彼の射撃に関する写本に注目して、次のような課題を設定した。まず、1) P.H. マイルの生涯と、2) 年代記作者としての彼の業績を概観する。次に、射撃に関する写本を取り上げ、3) 写本の成立について検討し、最後に 4) 写本の内容を明らかにする。

## I. P.H. マイルの生涯と年代記

## 1. 参事会役人としてのマイル

1537年にアウグスブルク市の統治機関である参事会の役人であった祖父ハンス・マイルが死去した際、孫であるパウル・ヘクトール・マイル (Paul Hector Mair) が祖父の役職を引き継いだ。だが、彼はこの時20歳であった<sup>6)</sup>。このことから、彼が1517年生まれであることが明らかにな

る。しかしながら、生誕地や誕生日あるいは教育など、彼が参事会役人になるまでの経歴については、ほとんど不明である。P.von シュテッテンが指摘しているように、マイルが残した備忘録や年代記あるいは叢書から、ラテン語を含めて「十分な教育を受けていた」ことは明かである<sup>7)</sup>。とはいえ、マイルがどこで教育を受けたのか、また後の職務に必要な知識をどこで得たのか、ということに関しては不明である。

1541年にマイルは参事会における「会計係 (Stadtkassier)」に就任し、市庁舎の中にある住居に入居した。会計係としてのマイルの仕事は、次の2つに代表される。1) 毎週金曜日に収入役と支出役と一緒に都市会計の賃借の精算を行い、両替も行った。2) アウグスブルクに置かれていた皇帝の「帝国金」の管理を行った。さらに、彼は1545年から「糧食係 (Proviantamt)」も兼任した<sup>8)</sup>。この仕事は多岐に及んでいた。例えば、1) 市庁舎におけるすべての鍵の管理、2) 市庁舎のすべての部屋の掃除、暖房、照明の監督と必要な物品の購入、3) 武器や市庁舎における食器の購入と管理、4) 皇帝や貴族などの高貴な訪問客に対するワインなどの贈答品の購入、5) 帝国議会が開催される市庁舎の会場準備と必要な物品の購入、6) 帝国議会の際の娯楽 (馬上槍試合、競馬、舞踏会など) のための会場準備や飲食に必要な物品の購入、7) 戦時に必要な物品の購入、などなど。また、彼はアウグスブルク市参事会の代表として、他の都市に贈り物を届けることもあった。このような会計係と糧食係の職務を通じて、マイルは金融と会計に精通した人間となり、帝国議会の際には多くの諸侯や貴族と知り合いになった。

参事会役人としてのマイルの年収は、当初は50グルデンであったが、最終的には160グルデンに達していた<sup>9)</sup>。この年収の他に、彼には現金や物品による副収入があった。例えば、彼が居住した市庁舎の住居では、暖房費や光熱費が不要であった。また、市庁舎で開催される参事会員や諸侯などの宴会の際には、「余り物」が彼のものとなった。謝肉祭や復活祭など宗教的

祝祭の際には、参事会から現金や穀物やワインなどが支給された。この他、諸侯への贈り物の購入や為替からの多額の「手数料」があった。このような豊かな収入を基に、彼は金銀の高価な食器や武器あるいは絵画、さらには衣服や家具などを購入し、役職から得る年収の4分の3をワインの購入に当てた。また、彼は金貸しであり、家と土地にも投機した<sup>10)</sup>。

他方で、彼の富は不法な手段による蓄財によってもたらされていた。彼は現金には手をつけず、参事会の会計帳簿を改ざんし、物品購入の書類を偽造するなどして、公金を横領していた。こうした不正行為は1579年の11月に発覚し、裁判にかけられた。その結果、絞首刑の判決が下され、12月10日に処刑された<sup>11)</sup>。

## 2. 年代記作者としてのマイル

マイルの富は図書を購入にも向けられた<sup>12)</sup>。彼の蔵書は絞首刑後に参事会によって売却されたが、参事会が作成した売却目録から彼の蔵書がきわめて多方面に及んでいたことが明らかになる<sup>13)</sup>。例えば、年代記、ギリシャ語とラテン語の歴史書と哲学書、医学書と薬学書、植物誌、紋章書、予言書、歌謡書、剣術書、ルターの作品を始めとする宗教書、などなど。こうした図書の購入だけでなく、マイルは写本を集めて一つの本にした数々の「叢書 (Sammelband)」を作成したり、自ら著作を書いたりした。F.ロートが作成したマイルによる写本の目録が示しているように、マイル自身が関与した著作や叢書は、1) 「備忘録 (Memorialbuch)」、2) 歴史的な内容を有する写本を集めた「叢書」、3) 射撃や剣術に関する写本、に分けられる<sup>14)</sup>。

マイルは会計係と糧食係という職務を通じて、参事会に関係するさまざまな「日常的な慣習」に通暁していった。例えば、参事会やツフットの選挙、城門の開閉、夜警の配置、葬式、競馬や射撃大会などの行事、あるいは帝国議会での接待や儀式あるいは贈答、などなど。マイルはこうした出来事や慣例を『備忘録』として書き残した<sup>15)</sup>。他方、彼はさまざまな年代記や文書

などを書記を雇って筆写させ、『叢書』にまとめた<sup>16)</sup>。

参事会役人でありながら多くの収入を得ていたマイルは、豊かな商人たちの生活を模範にしており<sup>17)</sup>、競馬や狩猟などの貴族的なスポーツを行っていた。とりわけ、彼は「騎士的な剣術練習を行い、さまざまな武器での剣術を学び、剣術興行で試験を受け、そのようなことに喜びと愛着を感じていた」<sup>18)</sup>。さらに、彼は豪華な弩を所有し、アウグスブルクの「名望ある人々」が所属している銃射手団体の会員でもあった<sup>19)</sup>。彼は剣術や射撃を自ら修練するだけでなく、これらの「術」に関する図書を購入したり、筆写させていた。彼はA. デューラーの『格闘書』、F. von アウエルスヴァルトの『格闘書』、最初に印刷されたエゲノルフの『剣術書』、あるいはアウグスブルクのG. エアハルトの『剣術書』などを所蔵していた<sup>20)</sup>。他方で、彼はニュルンベルクの剣術師範であるA. ラストの剣術書<sup>21)</sup>を筆写させたり、自らの体験を基にさまざまな武器による徒歩と騎馬での剣術に関する『剣術書』<sup>22)</sup>をも書き残した。さらに、彼はアウグスブルクや他の都市で開催された公開射撃大会について備忘録に書き留めたり、写本を集めた叢書を作成した。

## Ⅱ. 射撃に関する写本の内容

### 1. 写本の成立

15・16世紀のアウグスブルクでは、他の都市の射手も参加する「公開射撃大会」が開催され、他の都市で開催される射撃大会にも射手が派遣された。また、市民の射撃訓練を奨励するために「ズボン布」を賞品とした「ズボン射撃大会」が開催された<sup>23)</sup>。マイルは、このようなアウグスブルクにおける射撃制度の歴史を調べ、自らが体験した射撃に関する出来事を「備忘録」に書き残した。例えば、彼が死亡する1579年まで書き継がれた『大備忘録』では、「射手と射撃について」という表題の下に1411年から1575年までの出来事が記述されている<sup>24)</sup>。この記述の

内容を見ると、一部はさまざまな年代記に依拠しているが、大部分は参事会からの支出に関する都市会計帳簿からの転記である。前述のように、都市会計係として会計帳簿を管理していたマイルにとっては、古い帳簿から射撃に関する記録を書き出すことは容易なことであった。これらの記録の他に、マイルは射撃に関するさまざまな文書や絵画をも収集していた。彼はこれらの資料を基にして、射撃に関する年代記とも言える一冊の「叢書」を作成した。

マイルはこの叢書に次のような表題をつけている。「帝国都市アウグスブルクの参事会が開催したり、参事会が他の都市に市民を路銀つきで派遣した1411年から1567年までの弩と銃による射撃大会の記録。私パウル・ヘクトール・マイルが特別な熱意でこの本を集めた。索引つき」<sup>25)</sup> (以下では『記録』と略述)。現在はヴォルフエンビュッテルのヘルツォーク・アウグスト図書館が所蔵しているこの本の大きさは縦が39.5cmであり、横が27.5cmである<sup>26)</sup>。紙を使用したこの本は、丁づけのない索引(6丁)と389丁の本文から構成されている。筆跡あるいは欄外へのマイルの書き込みから判断すると、彼が本文全体を一人で書写したのではなく、複数の手によって書写されたことが明らかになる<sup>27)</sup>。さらに、36の彩色画および木版画と銅版画の各々一つずつが所収されている<sup>28)</sup>。

この『記録』の正確な作成年月は不明である。表題には「1411年から1567年まで」と記述されているが、実際にはマイルの死後の文書も含まれている。この文書は「ローゼナウの銃射手団体が所蔵する財産目録」という表題を有しており、内容から「1629年2月20日」に作成されたことが明らかになる<sup>29)</sup>。1579年12月10日に横領の罪で絞首刑に処せられた後、マイルの蔵書は参事会によってすべて売却された。1580年に参事会が作成した「パウル・ヘクトール・マイルの売却蔵書目録」<sup>30)</sup>は、この『記録』の購入者について何も記載していない。しかしながら、恐らく、「ローゼナウの銃射手団体がこの叢書を購入し、後に「財産目録」を挿入したもの

と思われる<sup>31)</sup>。

マイルが『記録』を叢書として完成させたのは、1579年7月15日から横領で逮捕される11月21日の間であったと思われる。というのは、彼は1579年の出来事として「銃射手のための新しい射手会館の建設」と「大砲射撃への参加者名簿」について記録しており、特に射手会館の建設に関する記述には「1579年7月15日水曜日に行われた」という記述が見られるからである<sup>32)</sup>。しかも、マイルが作成した索引にも大砲射撃への参加者名簿に関する項目が記載されている。このように、『記録』は1579年に完成したと推測されるが、彼がいつ頃からこの本の作成に取りかかったのか不明である。

## 2. 写本の内容

本書はさまざまな写本を一冊の本にし、マイルが「索引」を作成したものである。紙数の関係から「索引」の邦訳による内容の紹介を断念し、各々の写本の表題と思われるテキストの邦訳によって『記録』の内容の紹介としたい。各段落の数字は、訳者が設けたものである。( )内の数字は丁数を示し、[ ]内の語句は訳者の挿入である。なお、各々の写本の出典に関しては、一部を除いて今後の課題としたい。

### 表題の邦訳

- 1) 1560年シュツットガルトでの公開射撃大会 (1<sup>r</sup>-88<sup>r</sup>)<sup>33)</sup>。「1560年にビュルテンベルク公クリストフがシュツットガルトで開催した豪華な射撃大会。大公閣下は100デユカテンを一等賞のために寄付した。[競技会を案内する] 告示の内容によれば、以下のように行われた」(1<sup>r</sup>)。
- 2) 1567年アウグスブルクでの公開射撃大会 (88<sup>r</sup>-190<sup>r</sup>, 197<sup>r</sup>-210<sup>r</sup>)。「バイエルン公アルブレヒトを讃えて帝国都市アウグスブルクの市長と参事会が開催したアウグスブルクでの弩射撃大会。彼らは一等賞のために100グルデン相当の金メッキされた銀製の酒杯を寄付した。告示の内容によれば、以下のように行われた」(88<sup>r</sup>)。射撃大会の後で参事会とアルブレヒト公がフリードベルク市を訪問したことも記載されている。さらに、射撃大会への告示を兼ねた招待状(印刷)、射撃小屋・標的小屋・優勝杯・書記・道化師・ラッパ手・笛吹き・太鼓手・標的係・矢を運ぶ少年・鍵係・旗を運ぶ少年に関する彩色画、競技場全体を描いた木版画が挿入されている<sup>34)</sup>。
- 3) 1569年フッガーが開催した射撃大会 (211<sup>r</sup>-221<sup>r</sup>)。「1569年10月10日にクルヒベルクとヴァイセンホルンの男爵であるジェロニムス・フッガーがローゼナウで開催した射撃大会に関するカスパール・ダンベルクによる詩」(211<sup>r</sup>)。
- 4) 1568年フッガーが主催した射撃大会 (222<sup>r</sup>-223<sup>r</sup>)。「1568年10月10日にジェロニムス・フッガーが開催した射撃大会」(222<sup>r</sup>)。
- 5) ハンの詩 (224<sup>r</sup>-235<sup>r</sup>)。「弩・銃・弓による射撃で命中しなかった射手たち全員が常に話す口実。全く有用で面白い口実。フランクフルトの市民バルハザール・ハン」(224<sup>r</sup>)<sup>35)</sup>。
- 6) 射手賛歌 (235<sup>r</sup>-237<sup>r</sup>)。「1566年アウグスブルクでの帝国議会の時にローマ皇帝マクシミリアン2世が行ったアウグスブルク市への贈答の際の射撃大会での射手賛歌」(235<sup>r</sup>)。
- 7) 1509年アウグスブルクでの公開射撃大会 (239<sup>r</sup>-293<sup>r</sup>)。「2つの大規模な射撃大会の公式記録。1509年に帝国都市アウグスブルクがローゼナウで競馬・競走・跳躍・石投げ・富くじ・盤上遊戯と共に、銃と弩による射撃を開催した」(239<sup>r</sup>)。マイルによる公式記録の「要約」が添えられている。さらに、盤上遊戯・九柱戯・弩射撃・競馬・競走・跳躍・石投げ・入賞者の行進・道化師・銃射撃・富くじ小屋・富くじの抽選に関する彩色画が挿入されている<sup>36)</sup>。
- 8) 公開射撃大会の開催と射手の派遣 (191<sup>r</sup>-193<sup>r</sup>, 194<sup>r</sup>-196<sup>r</sup>, 293a<sup>r</sup>-300<sup>r</sup>, 380<sup>r</sup>-380<sup>r</sup>)<sup>37)</sup>。「帝国都市アウグスブルクの参事会は以下

の年に射撃大会を開催し、他の〔都市の〕射撃大会に路銀を支給して射手を派遣した。1411年、1425年、1426年、1435年、1441年、1450年、1470年、1476年、1478年、1478年。〔異なった筆跡で〕さらに293丁では1550年、1551年、1560年、1567年、1574年、195丁では1430年、1432年、1501年、1518年」(294<sup>r</sup>)<sup>38)</sup>。

- 9) 1573年ツヴィッカウでのザクセン選定侯による射撃大会に関する銅版画 (301<sup>r</sup>-302<sup>r</sup>)。
- 10) 1572年のエーベルスドルフでの射撃大会 (304b<sup>r</sup>-304b<sup>r</sup>)<sup>39)</sup>。
- 11) ビール樽を乗せた荷車を引く2頭の牛の彩色画 (304b<sup>v</sup>-305<sup>v</sup>)。
- 12) 1578年のアウグスブルクでの富くじ (306<sup>r</sup>-340<sup>r</sup>)。「1578年9月28日から10月6日までアウグスブルクの市民ゲオルグ・ヴィデンマンが実施した富くじの公式記録」(306<sup>r</sup>)。ゲストハウス・金貨・金の鎖・杯・富くじ小屋・札を引く少年・道化師と少年・富くじでの行進に関する彩色画が挿入されている。
- 13) 1578年アウグスブルクでの大砲射撃 (341<sup>r</sup>-379<sup>r</sup>)。「1578年にアウグスブルクで開催された大砲による大規模な射撃大会。この射撃大会がどのように組織され、誰が賞品を獲得し、最初から最後までどのように行われたか」(341<sup>r</sup>)。大砲射撃と行進に関する彩色画が挿入されている。
- 14) 1579年ローゼナウにおける銃射手のための新しい射撃小屋の建設 (380<sup>r</sup>-381<sup>r</sup>)。
- 15) 1579年アウグスブルクでの大砲射撃 (381<sup>r</sup>-383<sup>r</sup>)。
- 16) ローゼナウにおける銃射手団体の財産目録 (384<sup>r</sup>-389<sup>r</sup>)。

#### IV. おわりに

P.H. マイルが参事会役人として活躍した時代は、宗教改革の時代でもあった。1517年のルターによる『94ヶ条』の発表後、カトリック

派の皇帝および諸侯と、改革派（新教派）の諸侯および都市との間で、宗教改革を巡る政治的抗争が展開された。新教派の諸侯や都市は1530年にシュマルカルデン同盟を結成し、皇帝カール5世に対抗した。帝国都市アウグスブルクは、1536年にシュマルカルデン同盟に加盟し、翌年にはカトリックの聖職者を追放した。しかし、シュマルカルデン戦争（1546-47）において同盟側が皇帝に敗れると、アウグスブルク市も高額な罰金を支払わなければならなかった。1548年8月には、皇帝の命令によって、アウグスブルクの支配体制は、ツンフト支配から都市貴族支配へと戻った<sup>40)</sup>。こうした時代の中で、終生カトリック信者であったマイルは日々のさまざまな出来事を『備忘録』に書き留め、数多くの写本や図書を収集した。

上述のように、マイルは自ら剣術や射撃の練習をするだけでなく、競馬やダンスあるいは射撃について『備忘録』に書き留めた。さらに、彼は射撃や剣術あるいは馬上槍試合に関する文献も収集していた。これまでのドイツ中世スポーツ史研究において、マイルほどスポーツに関する写本を数多く収集した人物は知られていない。マイルが自ら記述したり、収集したスポーツ関係の文書は、ドイツ中世後期のスポーツの世界を明らかにするための欠くことのできない史料を提供している。この意味では、P.H. マイルはドイツで最初のスポーツ年代記者とも言えるであろう。

本稿で取りあげた射撃に関する写本である『記録』は、ドイツ中世後期の都市における「公開射撃大会」の歴史を研究する上で最も重要な史料と言える。この射撃大会に関する史料としては、(1)射撃大会の開催を案内する「射手状(Schützenbrief)」(賞品、競技規則など)、(2)射撃大会の経過を記録した公的な記録(参加者目録、入賞者目録、競技記録など)、(3)都市会計帳簿における支出、(4)年代記における記述、(5)道化師による記録、(6)細密画や銅版画などが挙げられる<sup>41)</sup>。マイルの『記録』はこれらの史料をすべて所収している。特に、アウグスブルク

の都市会計帳簿における射撃大会への支出や、  
1509年の公開射撃大会の記録（とりわけ走跳投  
の競技記録）は、他に類例のない貴重な記録で

ある。このように、マイルの「記録」はアウグ  
スブルクにおける公開射撃大会の歴史に関する  
第一級の史料と言える。

表 I 丁づけに基づく「記録」の内容

1 <sup>r</sup> -88 <sup>r</sup>	シュツットガルトでの射撃大会(1560)
88 <sup>r</sup> -187 <sup>r</sup>	アウグスブルクでの射撃大会(1567)
188 <sup>r</sup> -190 <sup>r</sup>	バイエルン公フリードベルクのゲストとなる(1567)
191 <sup>r</sup> -191 <sup>r</sup>	ブルクハウゼンへの射手の派遣(1550)
192 <sup>r</sup>	ニュルンベルクへの射手の派遣(1551)
192 <sup>r</sup>	ゲンベンハウゼンへの射手の派遣(1567)
192 <sup>r</sup> -193 <sup>r</sup>	シュツットガルトへの射手の派遣(1560)
194 <sup>r</sup>	ズボン布の購入(年代不明)
194 <sup>r</sup>	シュトラスブルクへの射手の派遣(1576)
195 <sup>r</sup>	アウグスブルクでの射撃大会(1430, 1432)
195 <sup>r</sup>	シュツットガルトへの射手の派遣(1501)
195 <sup>r</sup> -196 <sup>r</sup>	アウグスブルクでの射撃大会(1518)
197 <sup>r</sup> -198 <sup>r</sup>	アウグスブルク射撃大会の招待状(1567)
199 <sup>r</sup> -210 <sup>r</sup>	アウグスブルクでの射撃大会の挿し絵(1567)
211 <sup>r</sup> -221 <sup>r</sup>	J. フッガー主催の射撃大会(1569)
222 <sup>r</sup> -223 <sup>r</sup>	J. フッガー主催の射撃大会(1568)
224 <sup>r</sup> -235 <sup>r</sup>	B. ハンの詩:「射手の口実」
235 <sup>r</sup> -237 <sup>r</sup>	射手賛歌(1566)
238	(白紙)
239 <sup>r</sup> -288 <sup>r</sup>	公開射撃大会の「公式記録」(1509)
288 <sup>r</sup> -293 <sup>r</sup>	マイルによる1509年の射撃大会の「要約」
293a <sup>r</sup> -293a <sup>r</sup>	射手の派遣(1550, 1551, 1567, 1560)
293a <sup>r</sup>	J. フッガー主催の射撃大会(1555)
293a <sup>r</sup> -293a <sup>r</sup>	インスブルックでの公開射撃大会(1574)
294 <sup>r</sup> -300 <sup>r</sup>	射手の派遣(1411-1574)
301 <sup>r</sup> -302 <sup>r</sup>	ツヴィッカウでの射撃大会の銅版画(1573)
(303)	(「303」という丁づけは欠落している)
304b <sup>r</sup> -304b <sup>r</sup>	エーベルスドルフの射撃大会(1572)
304b <sup>r</sup> -305 <sup>r</sup>	ビールを運ぶ牛車の彩色画
306 <sup>r</sup> -340 <sup>r</sup>	アウグスブルクでの富くじ(1578)
341 <sup>r</sup> -379 <sup>r</sup>	アウグスブルクでの大砲射撃大会(1578)
380 <sup>r</sup> -380 <sup>r</sup>	ミュンヘンへの射手の派遣(1577)
380 <sup>r</sup>	パッソウへの射手の派遣(1577)
380 <sup>r</sup> -381 <sup>r</sup>	アウグスブルクでの新しい射撃小屋の建設(1579)
381 <sup>r</sup> -383 <sup>r</sup>	アウグスブルクでの大砲射撃大会(1579)
384 <sup>r</sup> -389 <sup>r</sup>	銃射手団体について(1629)

## 注

- 1) もちろん、マイルは「スポーツ」という言葉を使用してはいない。この概念はドイツには19世紀前半に英語から導入された (Grell, N., Zur Geschichte des Begriffs "Sport" in England und Deutschland. Wien 1943. S.42)。本稿では、「スポーツ」という語を理想型概念として捉え、「身体運動」と同義に使用する。
- 2) Dürer, A., Oplodidaskalia, sive armorum tractandorum meditatio. 1512, Wynmann, N., Colymbetes sive de arte natandi. Augsburg 1531, Scaino, A., Trattato del giuoco della palla. Venedig 1555, Manus, O., De gentibus septentrionalibus. Rom 1555, Mercurialis, H., Ars gymnastica. Venedig 1569, Tuccaro, A., Trois dialogues de l'exercice de sauter et voltiger en l'air. Paris 1599.
- 3) Mehl, E., Antonio-Scaino "Trattato del giuoco della palla" (Venedig 1555). Das erste Ballspielbuch der Neuzeit - eine turngeschichtliche Urkunde aus der Wende vom Humanismus zum Hofmannsvorbild. In : Leibesübungen und körperliche Erziehung. 1937. S. 437.
- 4) 拙稿, K. ヴァスマンスドルフ (1820-1906) のドイツ中・近世スポーツ史研究、広島大学総合科学部紀要 VI 保健体育学研究、第9巻 (1991)、25-35頁。
- 5) Wassmannsdorff, K., Sechs Fechtschulen(d.i. Schau- und Preisfechten) der Marxbrüder und Federfechter aus den Jahren 1573 bis 1614. Heidelberg 1870. S. V. Anm.1., Wildt, K.C., Daten zur Sprotgeschichte. Teil 1. Schorndorf 1970. S. 124, Krüger, A. und J. McClelland (Hrsg.), Die Anfänge des modernen Sports in der Renaissance. London 1984. S. 148.
- 6) Roth, F., Einleitung. In : Die Chroniken der deutschen Städte vom 14. bis ins 16. Jahrhundert. Hrsg. durch die Historische Kommission bei der Bayerischen Akademie der Wissen-
- schaften. Göttingen 1966 (1917). Bd. 32 (Die Chroniken der schwäbischen Städte Augsburg. Bd.7). S.IV. 本稿のマイルの生涯と年代記作成については、ロートの記述に従った。
- 7) Stetten, P.von(Jünger), Lebensbeschreibung zur Erweckung und Unterhaltung bürgerlicher Tugend. Augsburg 1782. S. 335. 参事会役人としての最初の仕事は何であったのか不明である。彼は職に就く前後に「アウグスブルクの都市裁判所書記であるフランツ・ケッツラー」の娘「フェリキタス・ケッツラー」と結婚した(Roth, F., Ibid., S.VIII)。
- 8) マイルは1567年まで「会計係」と「糧食係」の職務を兼務していたが、1568年以降は「糧食係」に専従した(Roth, F., Ibid., S.X/XI)。
- 9) マイルは祖父から6,000グルデンの遺産を受け取り、また妻からは200グルデンの持参金を得ていた。従って、マイルは最初から「非常に裕福」であった(Roth, F., Ibid., S. IX)。ちなみに、1567年当時のアウグスブルクにおける左官親方の日当は、「9クロイツエル」であった(Mair, P.H., Beschreibung Ettlicher Furnemer Stahel vnd Puchssen Schieszen. Bl. 165<sup>v</sup>)。60クロイツエルが1グルデンに相当した(Verdenhalven, F., Alte Maße, Münzen und Gewichte aus dem deutschen Sprachgebiet. Neustadt a.d. Aisch 1968. S. 31) ことから考えると、マイルの遺産がいかにか高額であったか想像できる。
- 10) 彼は1567年にはバイエルン公アルブレヒト5世に5%の利子で3,330フロリン (グルデン) を貸している(Roth, F., Ibid., S.XXII)。さらに、彼は1572年には市庁舎の裏手にある家を2,364グルデンで購入し、1577年には郊外の畑と野原を540グルデンで購入している(Roth, F., Ibid., S.XXIII-XXIV)。
- 11) マイルにとって死刑の判決は2度目であった。1571年3月にマイルの横領が発覚した。この時、彼はバイエルンに逃亡したが、バイエルン当局によってアウグスブルク市参事会に引き渡され、裁判にかけられた。そ

- の結果、彼は9月に「斬首刑」の判決を受けた。しかし、「匿名の紳士の命令」によって刑を免除され、職務に復帰した(Roth, F., *Ibid.*, S.XI-XII)。
- 12) マイルはフランクフルトの有名な出版家である S. ファイエルアーベントと親交を結んでおり、彼から新刊本を献呈されることもあった(Roth, F., *Ibid.*, S.XXXII)。ファイエルアーベントは G. リュクスナーの『トーナメント書』(Rüxner, G., *Thurnier Buch : von Anfang, Ursachen vrsprung vnd herkommen der Thurnier im heyiligen Roemischen Reich Teutscher Nation. Frankfurt a.M.1566*)を刊行している。マイルの『剣術書』におけるトーナメントに関する記述(*Opus amplissimum de arte athletica et gladiatoria. Codex Vindobonensis Palatinus 10826 in der Österreichische Nationalbibliothek. Bl.157'-172'*)から判断すると、彼がリュクスナーの『トーナメント書』を所蔵していたと推測できるが、死後に作成された彼の蔵書の『売却目録』(注13参照)にはこの本に関する記載は見られない。
- 13) マイルの蔵書は1580年5月2日から売却が始まった。この『売却目録』(1580.*Inuentarium vnnd verkauffregister der Buecher Paul Hector Mayrs, so au ß der Herren Stattpfleger gewelb kommenn. Im Augsburger Stadtarchiv*)では、スポーツ関係の蔵書に関して「マルクス・フッガー氏が若干の剣術書を購入した」(S. 31)と記載されているだけである。
- 14) Roth, F., *Ibid.*, S.C-CXLIV.
- 15) マイルは全部で9冊の「備忘録」を作成している(Roth, F., *Ibid.*, S.C-CXIII)。その内の1冊は、祖父が1501年に書き始めた「備忘録」を彼の死後も1568年まで書き続けたものである(Memorialbuch. "Schätze" Nr.63 im Augsburger Stadtarchives)。
- 16) マイルは全部で28冊の「叢書」を残している(Roth, F., *Ibid.*, S.CXIII-CXXXIV)。こうした叢書の中には、例えば同時代の年代記作者であるランゲンマンテルあるいはイエーガーの年代記も取りあげられている。なお、バイエルン科学アカデミー歴史委員会が編集した『14世紀から16世紀のドイツ都市年代記』の第32巻と33巻は、マイルの年代記に当てられている(*Die Chroniken der deutschen Städte vom 14. bis ins 16. Jahrhundert. Hrsg. durch die Historische Kommission bei der Bayerischen Akademie der Wissenschaften. Göttingen 1966. Bd. 32 und 33*(*Die Chroniken der schwäbischen Städte Augsburg. Bd.7*(Paul Hektor Mairs 1. *Chronik von 1547-1565*) und 8(*Das Diarium Paul Hektor Mairs von 1560-1563, Paul Hektor Mairs 2. Chronik von 1547-1565*))。
- 17) マイルは1561年には貿易商たちの「酒房」の会員に選出された(Roth, F., *Ibid.*, S. XXXIII)。
- 18) Mair, P.H., *Opus amplissimum de arte athletica et gladiatoria. Codex Vindobonensis Palatinus 10825 in der Österreichische Nationalbibliothek. Bl.14'*. 剣術師範たちの団体である「マルクス兄弟団」(拙稿、ドイツ中世後期における剣士ゲゼルシャフトの研究—「マルクス兄弟団」の規約と目的に関する一考察—、*体育史研究*、第2巻(1985)、pp.23-29)とマイルとの関係については、今後の課題としたい。
- 19) Roth, F., *Ibid.* S.LXII-LXIII. 銃射手団体に関しては、1512年に参事会から規約を作成することを許可されている(拙著、ドイツ中世後期のスポーツ—アウグスブルクにおける「公開射撃大会」—、不昧堂出版、1998年、148-149頁)。マイルとこの団体との関係については、今後の課題としたい。
- 20) Roth, F., *Ibid.*, S.LVII. これらの剣術—格闘書については次の文献を参照。Auerswald, F. von, *Ringerkunst 85 Stücke zu ehren kurfürstlichen gnaden zu Sachsen. Wittemberg 1539. (Erneuert von G.A. Schmidt, mit Einleitung von K. Wassmannsdorff. Leipzig 1887), Wassmannsdorff, K., Das um das Jahr 1500*



- gedruckte erste deutsche Turnbuch. Heidelberg 1871.
- 21) Rast, A., Fechtbuch. Schätze Nr.82 im Augsburger Stadtarchiv. マイルはラストが1549年に70歳以上で死去した後、1552年の12月に彼の剣術書を手し、写本させた(Rast, A., Ibid. Titel)。なお、マイルはアウグスブルクにおける「剣士規定」とヨハン・リヒテナウエルの剣術などに関する写本(Hs.I. 6. 20. 5 in der Fürstlichen Oettingen-Wallersteinschen Bibliothek und Kunstsammlung)をも所蔵していた。拙稿、16世紀のドイツ都市アウグスブルクにおける「Fechtschule」に関する規定、体育学研究、29 (1984) 1, 53-62。
- 22) Roth, F., Ibid., S.LVII-LXIII.マイルは「2人の経験を積んだ剣士」を雇い、彼らの攻防の術を本にまとめた(Mair, P.H., Opus. Codex Vindobonensis Palatinus 10825 in der Österreichische Nationalbibliothek. Bl. 14<sup>v</sup>)。この剣術書は同じ内容のものが3部存在する。ミュンヘンの州立図書館が所蔵するラテン語版、ドレスデン州立図書館が所蔵するドイツ語版、オーストリア国立図書館が所蔵するラテン語・ドイツ語版(Opus amplissimum de arte athletica et gladiatoria. Codex Vindobonensis Palatinus 10825 und 10826 in der Österreichische Nationalbibliothek)。本書の内容の分析については、今後の課題としたい。
- 23) アウグスブルクにおける射撃制度に関しては、注19の拙著を参照。
- 24) Mair, P.H., Grosses Memorybuch. Im Augsburger Stadtarchiv. Bl.835<sup>r</sup>-851<sup>r</sup>。さらに、1575年に書き始められた別の『年代記』(Cronica. Aug. No.248. im Augsburger Stadtarchiv)にも、『大備忘録』と同様の内容が記述されている(S. 85-103)。
- 25) Beschreibung Ettlicher Furnemer Stahel vnd Puchssen Schiessen, So Ein Ersamer Rath der Loblichen Reichs Statt Augspurg gehalten, Auch wie Sy Jre Burger Auf frembde vnd Auslenndische Schiessen geschickt, mit Zerung vnd Jnn Annder weeg abgefertigt haben, Alles von Anno. 1411. bis Auff das 15. 67. Jar Durch mich, Paulus Hector Mair mit besonderm Vleiß Jnn dises Buech zusammengebracht, Lustig vnnnd kurtzweillig zulesen laut volgennden Registers. Cod-Guelf. 1.2.1 Aug. 2<sup>o</sup> in der Herzog-August-Bibliothek Wolfenbüttel. 本研究は当該図書館から入手したマイクロフィルムとカラーポジフィルムに基づいている。
- 26) Heinemann, O. von, Die Handschriften der Herzoglichen Bibliothek zu Wolfenbüttel. Zweite Abtheilung. Die Augusteischen Handschriften. I. Wolfenbüttel 1890. S. 18.
- 27) マイルは1571年に「写字生 (Schreiberbube)」を雇うために、25グルデンを参事会から与えられていた(Roth, F., Ibid., S.XII)。
- 28) これら彩色画や木版画あるいは銅版画の作者に関しては、今後の課題としたい。
- 29) Mair, P.H., Beschreibung. Bl. 384<sup>r</sup>-389<sup>r</sup>。
- 30) 注13を参照。
- 31) ヘルツォーク-アウグスト図書館が『記録』を所蔵するに至った経緯については、今後の課題としたい。
- 32) Mair, P.H., Beschreibung. Bl.380<sup>v</sup>-383<sup>r</sup>。日付に関してはBl. 381<sup>r</sup>。
- 33) カッコ内の数字は丁数を、「r」(recto)は「表ページ」を、「v」(verso)は「裏ページ」を意味する。
- 34) マイル自身が直接関与したこの写本の出典も不明な部分が多い。この写本の大部分を占める参事会からの支出に関しては、一人称で記述されていること、またマイルが参事会の会計係と糧食係を務めていたことから判断すると、彼自身が記録したことであろう。招待状は150部が印刷されたことが欄外のメモから明らかになる(198<sup>v</sup>)。また、木版画はアウグスブルクの「ハンス・ローゲル」が作成したことが記載されている

(209)。しかし、彩色画の作者については不明である。

- 35) 表題の下に書かれた「P.H.M.k.1568」は「1568年にP.H.マイルが購入」と解釈できる。ハンの詩に関してはK.ヴァスマンスドルフが翻刻を行っている。Wassmannsdorff, K. (Hrsg.), Balthasar Han's Ausreden der Armbrust und Büchenschützen. Aus einer Handschrift des 16. Jahrhunderts. Heidelberg 1887.
- 36) 1509年の公開射撃大会に関する写本の出典と、この大会の競技経過については拙著(前掲書)を参照されたい。なお、この大会に対する都市当局からの支出に関しては、次の拙稿を参照されたい。アウグスブルクにおける1509年の「公開射撃大会」の開催費用、*体育史研究*、第12巻(1995)、pp.11-22.
- 37) 「293a」に関しては、「293」「293a」「293b」の3種類の丁づけがなされている。
- 38) この項に関しては次の拙稿を参照。スポーツ史資料：アウグスブルクにおける「弩射撃大会」(1470年)の開催経費、*スポーツ史研究*、第8号(1995)、35-40頁。スポーツ史資料：P.H.マイルによるアウグスブルクにおける公開射撃大会の『記録』(1411-1575)、成田十次郎先生退官記念会(編)、成田十次郎先生退官記念論文集 体育・スポーツ史 研究の展望—国際的成果と課題一、不味堂出版、1996年、25-40頁。なお、1425年、1435年、1441年、1450年にアウグスブルクで開催された射撃大会に関するマイルの記述は、H.ミューリッヒ、B.ツインク、E.ヴァールアウスの年代記からの転記であろう(拙著、前掲書、165-169頁)。
- 39) 「303」という丁づけは存在せず、「304b」という丁づけが2回行われている。
- 40) Zorn, W., Augsburg. Geschichte einer deutschen Stadt. Augsburg 1972. S. 152-197.
- 41) これらの史料に関しては、次の拙稿を参照されたい。スポーツ史資料：P.H.マイルによるアウグスブルクにおける公開射撃大

会の『記録』(1411-1575)、成田十次郎先生退官記念会(編)、成田十次郎先生退官記念論文集 体育・スポーツ史研究の展望—国際的成果と課題一、不味堂出版、1996年、26頁および注5-10。